

「第1回 和歌山県データ利活用コンペティション」への協賛を通じて学生への育成支援を行っています。

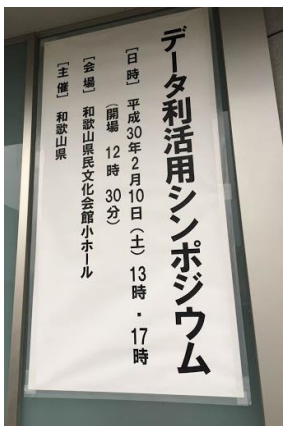
2018年2月10日（土）
データ利活用シンポジウムレポート
於：和歌山県民文化会館小ホール

ファミリーマートでは和歌山県と包括協定の締結以降、「わかやまポンチ」の商品開発や子ども店長による販売などを通じた「次世代育成支援」を継続して協力してきました。

今回、「第1回 和歌山県データ利活用コンペティション」協賛を通じて、公募対象となる全国の高校生・大学生への一層の育成支援を行っています。



ファミリーマート賞
授与の様子



2月10日（土）に「和歌山県民文化会館小ホール」で最終審査会が行われ、和歌山県仁坂吉伸（にさか よしのぶ）知事の開会の挨拶で始まり、最終審査に進出した高校生5チーム、大学生5チームがプレゼンを実施し、発表後、和歌山県、各協賛企業の選考会が行われました。

ファミリーマート賞は「人口減少問題を解決するための施策～女性の子育てと労働の両立からみる～」をテーマにした立教大学に決定しました。受賞した「立教大学 櫻本ゼミナール 2年」の3名は働く女性の子育てが難しくなっていることを課題に、子育てへの敷居が低くなれば、出産に踏み出しやすく、少子化対策につながるのではないかと考え、具体的施策として育休制度を利用する女性の代理を雇うことを義務付ける制度を提案しました。

プレゼンターとして関西第3ディストリクト副統括部長 團野より「ファミリーマート賞」と「副賞」を授与し、200名を超える来場者から受賞した学生たちへの大きな拍手が送られました。

◆「和歌山県データ利活用コンペティション」とは総務省統計局（統計センター）の和歌山県移転を契機に、全国にデータ利活用の重要性・有用性を発信するとともに、次世代のデータサイエンティストを育成するためのコンテストです。今回の和歌山県データ利活用コンペティションでは募集期間中に全国から高校生の部60点、大学生の部27点の作品の応募がありました。

ファミリーマートは、事業活動を通じて常にお客さま、地域社会、そして地球を幸せにする存在となることを目指します。